

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会  
第 73 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

- 1 日時 2017 年 11 月 21 日 (火) 13:30～15:05
- 2 場所 5 東洋海事ビル D 会議室
- 3 出席者 (順不同, 敬称略)
- (出席委員) 新堀部会長, 高橋副部会長, 加藤幹事, 上田, 大間, 小畑, 片岡, 川上, 熊崎, 斉藤, 白井, 田中, 田村, 深澤, 山本 (15 名)
- (代理委員) 笹原昭博 (電力中央研究所/小山), 北山一美 (東京工業大学/木倉), 杉山大輔 (電力中央研究所/藤田) (3 名)
- (欠席委員) 大久保, 坂下, 中島, 古谷, 柳原 (5 名)
- (常時参加者) 吉居, 緑川 (2 名)
- (説明者) 【LLW 放射能評価分科会】北島幹事, 柏木常時参加者, 【標準活動基本戦略タスク】用語辞典WG 山本委員 (3 名)
- (事務局) 中越, 田老, 谷井 (3 名)

4 配付資料

**配付資料**

- FTC73-0 第 73 回原子燃料サイクル専門部会議事次第 (案)
- FTC73-1 第 72 回原子燃料サイクル専門部会議事録 (案)
- FTC73-2 人事について
- FTC73-3-1 “中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順” の標準改定原案に関する標準委員会決議投票結果について
- FTC73-3-2 “中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順” の標準改定原案に関する標準委員会決議投票で受付けた意見への対応表
- FTC73-3-3 “中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順” の改定前後比較表
- FTC74-4 分科会活動状況
- FTC73-5 “第 3 回用語辞典WG 議事録及び用語辞典当部会関連部抄”

参考資料

- FTC73-参考 1 原子燃料サイクル専門部会委員名簿
- FTC73-参考 2 標準委員会の活動状況
- FTC73-参考 3 原子燃料サイクル専門部会出席実績

5 議事内容

事務局から開始の時点で委員 24 名中, 代理委員を含め 18 名の出席があり, 成立に必要な委員数 (16 名以上) を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録の確認 (FTC73-1)

前回議事録 (案) について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について (FTC73-2)

配付資料 FTC73-3 に基づいて、専門部会及び分科会の人事について以下の提案があり、分科会の常時参加者登録承認が確認され、審議の結果、専門部会の委員再任が決議された。

【専門部会】

1) 委員再任の決議

小畑 政道 (東芝)

白井 茂明 (リサイクル燃料貯蔵)

田中 忠夫 (日本原子力研究開発機構)

【分科会】

1) 常時参加者登録承認の確認

【リサイクル燃料貯蔵分科会】

福田 拓司 (原子力規制庁)

(3) 【報告・審議】“中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の標準改定原案に関する標準委員会決議投票結果及びその対応について (FTC73-3-1, FTC73-3-2, FTC73-3-3)

事務局から FTC73-3-1 に基づいて、“中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の標準改定原案が標準委員会の決議投票で可決されたことが報告された。

引続き、LLW 放射能評価分科会の北島幹事、柏木常時参加者から FTC73-3-2, FTC73-3-3 に基づいて、決議投票で受付けた意見への対応案について報告があった。対応案について審議した結果、対応案は編集上の修正であり、対応案を標準委員会で報告することが決議された。

主な質疑等は以下のとおり。

C. 規定の表現の変更 (複数箇所) に関する内容は、結構重い変更と考えるが、これを修正するに当たっては、標準委員会での説明時に留意して説明する必要がある。

C. 5.2.3.3 の「・・・場合は、・・・する。」では、必ず適用することを求められ、除外がない規定となるので、このままでは、適用することしか認められなくなる。

C. 学会標準は、法令ではないため、厳格な適用でなく、マイルドな適用が好ましいと考える。このためには、杓子定規でなく規定している考え方などを示して、そこを理解した上で、規定する内容を示す必要がある。

A. 3-2 の資料に、コメント対応欄に「適用の必要性がない場合」を示しているが、これを標準に注記などで示し、規定の意味を明確化する。

C. 理論計算法の妥当性確認は、注記 1 と注記 3 に分けて示しているが、全体を通した形で読んだ場合、違和感がある。学会標準 A008 の参照は、附属書 A に詳細を示しているのであれば、附属書に示しても良いのでは？

A. 附属書 A は参考であり、規定内容として、本文に示したいと考えている。このため、注記 3 の内容は、注記 1 と合体させた形で、示すことで、表現の適正化を図る。

C. 中深度処分の例で、「地表から 70m 以深の処分トンネルなどの廃棄物埋設地への処分」は、誤読などを防止するために、単に「地表から 70m 以深の廃棄物埋設地への処分」とした方が良い。

A. 拝承

C. 「JIS Z 8101-1:1999」は、改正されているので反映すること。

A. 拝承

C. 標準委員会のコメントは、考慮する事項を示し、これを踏まえて計算数を決定するようにした方が良いとのコメントで、例示だけでなく、本文に示す方が良い。

A. 拝承。考慮事項を示し、計算数を決定する内容に修正する。

C. 解説図 9 が白黒で、最大値と最小値の差異が無いことが、図からは読めないため、標準委員会では、カラー、拡大したもので説明した方が良い。また、図に手を加えられないのであれば、本図の意味を注記した方が良い。

A. 拝承

#### (4) 【報告】原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況について (FTC73-4)

事務局から FTC73-4 に基づいて、原子燃料サイクル専門部会の分科会活動状況について報告があり、次回以降は配布資料“分科会活動状況報告”中の欄“2. 開催実績”を“2. 開催実績及び/又は予定”に変更して記載することとなった。

#### (5) 【報告】用語辞典WGの検討状況について (FTC73-5)

標準活動基本戦略タスク・用語辞典WGの山本委員から FTC73-52 に基づいて、用語辞典WGの検討状況について報告があった。この用語辞典は、日本原子力学会が標準委員会において制定する標準に共通する“用語及び定義、略語”について、4 専門部会、標準活動基本戦略タスク、標準委員会での審議を経て、公開の技術レポートとして策定・発行したものである。2017 年 3 月から、標準委員会ホームページに pdf ファイルとして公開されている。新規の標準の発行などに連動して、年 1 回の頻度で改定する方針で用語辞典WGの検討が進められている。

主な質疑等は以下のとおり。

C. 余裕深度処分に関係する用語（余裕深度処分と中深度処分）、解説（最小深度）などに矛盾や混乱があるようだが、どのように考えればよいのか。整合化が必要ではないか。

A. この用語辞典は、基本的に各標準での用語の定義を集めて編集したものとなっており、最新の標準の検討とは時期的なずれがあり、そのような不整合が生じている。このようなこと自体は認識されており、年 1 回という改定頻度の下で改定・整合化を図っていくという方針である。

整合化に関しては、標準策定に関連する JIS の規定に即した整合化の必要性についての指摘も検討の中であった。

これ以外にも、別の機会にでもコメントいただければ用語辞典の改定検討に反映していきたい。

- C. 基本的には新規の標準での用語の定義などに照らして改定していくという方針か。
- A. そのとおりで、現在公開されている版に対しても、各専門部会などからのコメントがあり、それらのコメントについての対応も含めて現在の改定案に至っている。
- C. 余裕深度と中深度については、現在も検討途上というところもあるが、まとまった時点では結果を反映していただきたい。
- A. 拝承。

## 6 その他

次回第74回原子燃料サイクル専門部会は、2月21日（水）13:30から開催することとなった。

以上